

■ OnAir 3000 ユーザーレポート

東北放送株式会社 様

OnAir 3000



絆スタジオ (第9スタジオ・サブ) を OnAir 3000 で更新



東北放送株式会社
技術局 制作技術部
長田 英之

第9スタジオ・サブ

東北放送(以下、TBC)では2011年12月、約25年使用してきました第9スタジオ・サブの移転・更新を行いました。第9スタジオは、ラジオ生放送を中心に運用してきましたが、今回の更新では、スタジオを本社正面玄関前へと場所を移し、ラジオ生放送スタジオだけではなく、テレビは勿論、将来の多メディア放送にも対応可能なスタジオをコンセプトに構築しました。

またラジオ生放送は、DJスタイルのワンマン運行、ディレクターとMCのツーマン運行を主とし、省力化も重視。その結果、スタジオのスタイルについては、社内で様々な議論がありましたが、最終的にスタジオとサブの部屋を分けず同室に構築しました。

フリーレイアウト

音声調整卓の選定にあたって考慮した点は、音質は勿論ですが、基幹部分や電源が二重化されていること。またワンマンやツーマンでの運行において制作担当者が操作しやすく、わかりやすい調整卓であることを重視した結果、「OnAir

3000」を選択しました。

「On Air 3000」導入事例では、フェーダーなどの操作部分は机に埋め込む事が多いようでしたが、今回TBCでは日本導入事例では初めてTable top frame仕様を採用しました。元々調整卓本体と各フェーダー部分や設定ディスプレイモニターはCat5e ケーブルによって制御していることから、ディレクター・ミキサー席だけでなく、MC席でも使用できる、フリーレイアウトとしました。

今回の更新で導入した調整卓は、TBCでは初のデジタル調整卓で、導入前は心配していました。しかしそんな心配は最初だけで、運用開始し数日で、制作、MCやミキサー各自でスナップショットを駆使するなど、特に教えることもなく使いこなしています。運用開始して間もなく1年が経過しますが、大きなトラブルもなく、安定した運用ができています。

震災の後で

ところで、今回の更新に向け、発注の最終段階に、東日本大震災が発生しました。震災により、本社工舎、ラジオ送信所、支局などの多くの設備が被災、一時は更新自体が無期延期になることも想定されましたが、5月末には着工。震災後資材が不足している中、たまたま震災前に資材を確保していたことも幸いして予定より2ヶ月遅れ

で建家は完成。しかし、音声関連の機材は震災だけでなく、タイの洪水被害などの影響もあり、部品の調達に時間がかかったこともあり、完成運用開始は12月となりました。

絆スタジオ

スタジオの愛称「絆スタジオ」は社内公募によってつけられました。このスタジオ完成までには震災も含め、幾多の困難を乗り越え、また多くの方々の「絆」によって完成することができました。

スタジオ更新にあたり、スタジオ建家の設計施工では日東紡音響エンジニアリング様に、またスタジオ機器系統の設計、設置ではスチューダー・ジャパンブロードキャスト様及びアイコニック様に多大なるご協力頂きました事、この場をお借りして深く感謝致します。

